

(様式1)  
令和元年度 目標達成計画

園所名 一粒園認定こども園

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組  
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

**教育・保育目標**  
子どもが本来持っている「自ら育とうとする力」を発揮できるように、一人ひとりの子どもに合った人的・物的環境を提供し、子どもの発達と個性を尊重しながら豊かな人間性を備えた心身ともに自立した子どもを育てていく。

【目標達成計画】

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価	
共通課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>お散歩等園外での保育活動における安全対策について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩のルートの確認や、危険箇所をチェックし、同行する職員全員に周知する。</li> <li>子どもたちが交通ルールを守り、自分の命を危険から守る意識が持てるようにする。</li> <li>非常時等のことを想定し、その際の役割分担の確認を行い、臨機応変に対応できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩のルートを決定した後、中心になる職員が下見に出かけ、危険箇所を確認し、マップを作成する。</li> <li>散歩に出かける前日までに同行する職員全員が必ずそのマップに目を通して危険箇所を頭に入れておく。</li> <li>事前に子どもたちと基本的なルールを確認したり、事例を出して子どもたちと考えたりする機会を持つ。</li> <li>横断旗を購入し、随時活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険箇所はマップに写真で入れ、重要事項を文章化してマップに入れ込むことで、引率の職員の意識が高まり、各々が周囲をいつも確認しながら、子どもたちを誘導することが出来るようになってきた。</li> <li>子どもたちにも行く都度に危険な行動を考えてもらったり、怖かったことなどを話してもらうことで、実感として捉えることが出来てきた。</li> <li>横断旗を使うことで、横断歩道などで停車してくれる車が多くなり、スムーズに横断することが可能になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が下見に出かけて確認し、危険箇所を写真で、コメントを文章で入れ、わかりやすく共通理解ができる散歩マップが作られている。事前に把握し意識することで、職員一人ひとりが周囲を確認し安全な誘導につなげられている。購入した横断旗も活用されている。</li> <li>子どもたちが安全について考え話し合う機会が増え、意識向上に繋がっている。収穫祭には、5歳児が交通ルールを再度確認し、地域の市役所や警察署等に果物を届け感謝の気持ちを伝えることができた。</li> </ul>	
良いとこ自慢！	保育内容面	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの子どもを観察する中で、どのような環境を設定すればよいか、どのような援助をすれば子どもたちが主体的に活動できるか等を意識的に考え、どの保育者も実践に移していけるように個々のレベルアップを図る。</li> <li>既製の教具（遊具）だけでなく、個々の子どもが必要としているものを察知し、それに応じたものを作り上げていく。</li> <li>個も大切にしながら社会性もしっかりと育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目の前にいる子どもの気になる変化を見逃さず、クラスとしての方向性や個々の子どものステップアップに繋げるための関わり方などを職員会議やクラス会議で話し合うことを意識していく。（手作り玩具の検討など）</li> <li>話し合いの場面を意識的に作り、他者の意見に耳を傾けたり、自分の思いも伝えられる雰囲気大切に作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたち自身が主体的に話すようになり、問題が起きたときには自分たちで解決しようとする姿が見られるようになった。</li> <li>保育者主導ではなく、子どもの中の本当の要求などを汲み取った働きかけが出来てきた。</li> <li>職員間の話し合いによる共通理解が増えたことで、クラスを越えての子どもへのかかわりが増えてきた。</li> <li>玩具も使い方や興味関心のポイントを観察することで次へと繋げるきっかけが生まれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モンテッソーリの教義に則り、心の育ちをめざした保育がなされている。その上で、子どもたちが創意工夫しながら自由に遊ぶ機会も提供されており、子どもたちが自分たちで考えて遊ぶ姿が見られる。課題に直面しても、一人一人が工夫をこらして解決する場面があり、何かあっても乗り越えていこうとする力が育まれていることがわかる。</li> <li>一人一人が活動に自律的に取り組む中で、自らの目的をしっかりと持ちながら生活している。他者と比較したり、何らかの基準に合わせる事がなく、自分の意思に基づくので、自信を持っている子どもが多い。異年齢で育つ中で、お互いを尊重する気持ちが育まれている。さまざまな人とのふれ合いを通して、人権感覚を身につけていると考えられる。</li> </ul>	
	管理運営面	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り保育の良さを活かし、一人ひとりの子どものことを職員全員が把握している。</li> <li>情報交換や共有すべきことをしっかり伝え合い、クラスを越えて全員で保育に取り組んでいる。</li> <li>若手職員への指導も行いながら、基本的には縦の関係を強くせず、ベテランも若手も同じ保育者として対等に保育について語り合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議での意見等、回覧でその場にはない職員にも伝わるようにしているが、字面だけでは理解しにくいところもあるため、確実に意図していることが伝わるようにしていく。</li> <li>誰もがリーダーとして引っ張っていけるよう、経験値が浅い職員にもそのような機会を設定し意識を高める。</li> <li>短時間でも毎日、保育の振り返りができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議に出席した職員が確実に伝えるようにし、理解しにくいことがある場合は自主的に確認し合う。</li> <li>園外保育に行く前などに散歩に出かけ、若手職員にもリーダーとして引っ張っていく機会を設けるようにする。日常的に積み重ねの場を増やしていく。</li> <li>クラス単位の話し合いの時間確保に努める。（週に2日ほどを目標にする。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各保育者の理解度が明確化され、勤務年数の浅い職員には具体的な言葉を増やしてイメージが湧くようにすることが出来た。</li> <li>若手職員がリーダーとなることで色々な気付きがあり、細部にわたって配慮ができるようになった。</li> <li>短時間であってもクラス単位で話し合う時間を意識して持つ姿が見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の方針であるモンテッソーリ教育を職員全員が共通理解できるように、研修・会議等を活用し継続的に取り組まれている。縦割り保育の中で、子ども同士の関わり合いの深まりを感じると共に、職員も連携・協力しながら、クラスの垣根を超えた保育が実践されている。経験年数の浅い職員が先輩職員と共に保育したり、リーダー的な役割を与えられること等で、学びの機会を持ち成長できるように取り組まれている。</li> </ul>
ここを改善！	保育内容面	<ul style="list-style-type: none"> <li>モンテッソーリ教育の要である教具に頼りすぎているところがあり、教具を触っていたらモンテッソーリ教育をしているといった錯覚に陥る場合もあるように思う。</li> <li>行事があるとそちらにウエイトが置かれてしまい、時間に余裕がなくなってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論と実践の理解を深め、机上の論理に終わらず、実際の保育の場面をあてはめながら、具体的に理解できるような園内研修を持つ。</li> <li>職員一人ひとりが積極的に自主研修を積んでいけるような時間と環境を作っていく。</li> <li>行事のために特別なことをするのはではなく、日頃の保育の積み重ねの延長上に行事が持てるような保育を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各保育者が、子どもを観察しながら理解を深め、保育者の意図などを明確化し、実践に結び付けられるような話し合いをする。</li> <li>保育の方向性やモンテッソーリ教育についての共通理解を図るために、疑問点や相談事等がタイムリーに話せるような職員関係を築き、自主的な研修ができるようにする。</li> <li>行事の計画等は職員間で話し合ったり、主幹保育教諭、副主幹保育教諭に早めに相談し個々の子どもの目標を意識したりしながら、毎日の保育に組み込めるようカリキュラムを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のクラスの保育者との交流が増えたことで、全園児のことを意識しながら、保育に当たろうとする姿が見られるようになった。</li> <li>疑問や方向性に不安があると子どもに対しても消極的な関わりしかできないが、一つでも解決することで保育者自身の自信に繋がり、子どもに対しても積極的なアプローチが見られるようになってきた。</li> <li>若手保育者が、以前より早めに計画を立てて先輩保育者に相談をするようになり、より一層チームワークが高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳から5歳の異年齢で協同して遊ぶ機会があり、その中でお互いにかかわり合いながら自分たちで遊びを創り上げている。思いやりの心や憧れる気持ちが育っており、その中で自分の役割をしっかりと受け止めながら活動している。3歳未満児も、他の子どもたちの身近に生活しており、大きい子どもたちの刺激を受けながら生活している。そうした中でしっかりと社会性が育っているといえる。</li> </ul>
	管理運営面	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常勤職員への連絡、伝達が遅れたり、漏れたりするときがある。</li> <li>ベテランと若手職員の組み合わせで保育を進めることが多いため、誰かが誰かを助けるといった良い面もあるが、裏を返せば「おんぶに抱っこ」状態で、負担が多い職員とそうでない職員とが出てきてしまう。（若手育成）</li> <li>書類等の仕事が多く、そのことで疲弊して子どものための勉強をする時間が確保しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回覧板などは早く目を通すようにする。（自分が読めない時は先に回すなどの配慮を個々にする）タイムラグを減らす。</li> <li>経験のある職員がサブに回り、若手主導で保育する機会を多く設けて、早く仕事を覚えるような工夫をする。</li> <li>行事等の流れや課題、実施後の反省を誰もが見られるようにしておき、それをもとにして進めていけるようにする。</li> <li>保育者同士で役割をもって保育を進め、時間を有効に使えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回覧板のことは全員に再度周知する。回覧するものが多い時は回す工夫を臨機応変にする。</li> <li>行事の反省など重要なことは職員会議で共有し、更に各自でレポートにすることで、すぐに改善すべきことと次回に繋げることを明確化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>退勤時に事務所に寄ってもらいその場で読んでもらうことで回覧が停滞することは減ってきた。</li> <li>子どもの成長のためには、うまくできない経験も必要なことなので、命への危険がない限り、積極的に活動できるように見守りつつ、それと同時に成功への要因を職員全体で考えていくことで、今の現状には一番何がベストなのかを共通認識することが出来た。</li> <li>振り返りを全体・個人で持ち、書き留めておくことは大切なことなので、次への成果も期待して今後も続けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を迅速に的確に共有できるように、様々な工夫を検討し取り組まれている。回覧板の閲覧方法の工夫等、具体的な改善がなされている。</li> <li>行事についての実施状況や振り返りを「行事ノート」に記録し、次年度の実施につなげる取り組みが継続して行われている。経験の浅い職員も、保育実践でのOJT、会議、資料の確認などで、資質向上につなげる仕組みがある。</li> </ul>